



楠の葉新聞

【先駆者の言葉の雫】

楽しんでやる苦勞は、
苦痛を癒すものだ。

シェイクスピア

インククロス館長 中林 奨 氏

の講演から

先日行われた楠の葉祭で、立志の集いを兼ねて記念講演を実施しました。大変興味深いお話で生徒の感想にも新しい何かを得た、発見したという感想が多数みられました。参観いただいた保護者も多かったと思いますが、来ることができなかった方のため要点を紹介します。

・・・これからは自分で仕事を作りなさい。そのためには好きなことと好きなことを掛けるとやりたい仕事が見つかると思います。好きなことは多い方がいい。「好きなこと」×「好きなこと」×「好きなこと」×・・・まさに目から鱗の瞬間でした。以前岡中ホームページで書かせていただいた内容そのものでした。「野球が好き」×「落語が好き（しゃべるのが好き）」×「世の中の変化を見るのが好き」＝社会科の教員

この公式は使えそうな気がします。

「好き」なことをたくさん作るのは楽しそうです。それを仕事にできたら・・・将来のことを考えるのがワクワクしてきませんか。

つながる延岡 —延岡と壬生町の関係—

最近、すごく不思議な駅を見つけました。東武線宇都宮栃木間にある「おもちゃのまち駅」です。「おもちゃのまち？」駅名が「おもちゃのまち」これが大発見です。すごいことです。おもちゃのまちです。これで探求心が沸いてこないと社会科の教員として失格でしょう。調査の手掛かりは「栃木県壬生町」、とりあえず「壬生」について調べてみる。壬生藩、1639年三浦正次が藩主を務める。なんと3代目藩主三浦明敬は1692年、延岡藩に移封されます！



三浦の移封により、延岡藩は九州では稀な譜代大名となる。偶然なのか必然なのか。運命を感じながら調査を続けた。おもちゃがある町か、おもちゃをつくらしている町か。おもちゃに関連することは間違いない。便利な時代、パソコンをクリックすれば答えが一瞬にして出てきた。1962年年富山栄市郎氏が東京にあった玩具メーカー工場を組合ごと壬生町に移転させた。この玩具メーカーは後にトミー（現タカラトミー）という大手のおもちゃ企業に成長する。現在は工場を別の場所に移転させたために駅名の意味は薄れつつある。この駅はトミーの従業員の為につくられた駅で富山氏が駅名を命名したとのこと。夢のある駅になってほしいとの願いから。それにしても延岡と

サザエさんを考える

四年前までサザエさんの視聴率は20%を超えていました。最新の数字では13%（一月四日付）二〇一六年以降、10%を切ることも。ネットニュース等ではスポンサーの撤退や番組打ち切りなどの噂が流れたこともありましたが。現在13%前後で落ちているようです。前置きが長くなりましたが、サザエさんの視聴率を話題にしたいのではありません。不易と流行について考えてみたいと思います。つまり、変わらないものと変わっていくものです。サザエさんの居間のレイアウトは見る限り大きく変わっていないように思えます。テレビはタッチチャンネルでリモコンがなさそうです。夕飯を囲む円卓では大人は座布団子どもは畳に直に正座。さらに、電話は黒電話。今の時代ではなく昭和の時代を描くアニメだといえます。昔の大家族の生活の様子を今に伝える番組。一方でキャラクターを担当する声優さんはサザエさんとタラちゃん以外は変わっています。エンディングのじゃんけんも昔は食べ物を放り投げて口に入れるサザエさんの特技で終わっていました。子どもがまねをするとの指摘でじゃんけんになったと認識しています。昔を今に伝えながら、時代とともに少しずつ形を変える。何となくキャリア教育の考え方に似ている気がします。

ちなみに磯野家のある東京都世田谷区新町は現在一坪200万円で地価は2億円を超えるそうです。久しぶりにサザエさん見てみようと思います。